



最強のてんかん検査： 長時間ビデオ脳波記録

てんかんの正しい診断にもっとも確実な方法は、実際に医師が発作を観察することです。もちろん、てんかんに詳しい医師であれば、目撃者から正確な情報を聞いて、発作の様子を想像することは可能です。しかしながら、多くの場合は情報が限られ、通常の診察ではよほどの偶然がない限りこれを見ることは困難です。脳波検査もまたてんかんの診断に有用ですが、通常は30分程度の記録であり、てんかんの時に見られる異常波形を必ずしも記録することができません。また、我々は起きているときと眠っているときでは脳波の波形も異なり、一般的には眠っているときの方が、てんかんの異常波形は出やすいとされます。長時間ビデオ脳波記録は、このような通常の診察や検査では知りえない発作などの様子を脳波と同時に観察します。また、長時間連続して記録することで、出現頻度の少ない異常波形も記録できます。特に小児においては、鎮静薬などを使わずに自然な睡眠変化を記録することができるので、この点も非常に有用です。また外科治療の適応を決める際には、てんかんの原因となっている、大脳の電気回路の異常部位(てんかん焦点)を見つけることが重要で、この長時間ビデオ脳波記録が必須の検査となります。

